

テーマセッション

不妊と人口

組織者：小西祥子（東京大学）

不妊とは、妊娠を希望していながら妊娠しない状態をさす。すなわち、妊娠を企図して（避妊をやめて）から妊娠するまでの期間をさす受胎待ち時間が、ある一定期間以上長い状態と言い換えられる。この受胎待ち時間は、自然出生力の近接要因の1つである（Wood, 1994）。日本において近年報告されている不妊症の増加は、拳児を希望する集団における受胎待ち時間の延長を反映しているとも解釈できる。しかしながら受胎待ち時間についての、人口学的観点からの研究はまだ限られている。そこで本セッションでは、受胎待ち時間とその変動要因に関する報告を募集する。ただし受胎待ち時間そのものを扱った報告のみならず、月経周期や精液所見など関連する要素についての報告についても同様に募集したい。

座長：高坂宏一（杏林大学）

討論者：中澤 港（神戸大学）

討論者：森木美恵（国際基督教大学）

宗教と人口

組織者：小島 宏（早稲田大学）

1960年代までの欧米の人口学では宗教の人口に対する影響に関する文献が少なからずあったが、その後、世俗化や反差別主義の流れもあってか宗教に対する関心が薄れていたように思われる。しかし、1990年のソ連崩壊後、特に2001年の「9.11 米国同時多発テロ」後、人口学においても宗教に対する関心が復活したように思われる。最近では欧米では Ellison and Hummer (2010) のように「宗教人口学」に関する包括的な研究書も出ている。

わが国の人口学では宗教に対する研究が比較的少なく、戦後から1990年代までは主としてキリスト教関係の人口研究者によってなされ、それ以降は、特に途上地域を対象とする人口研究者による宗教関連の研究が増加傾向にあった。そして、最近、早瀬保子・小島宏編『世界の宗教と人口』（原書房、2013年）が刊行された。

このテーマセッションでは同書の執筆者を含め、宗教と人口の相互関係について理論的・実証的研究をされている会員の報告を広く募集したい。